

自然と文化科 活動記録 (公開講演会標準様式)

日時	2024 年 9 月 20 日 (金) 10:00~15:20	担 当 者
場所	クロスパル高槻 8 階 イベントホール : 午前 公開講演会 : 午後 各種会議	文 : 上池 喜代美 写真: 華崎 律子
備考	参加者数 1 班 20 名 2 班 18 名 3 班 18 名 4 班 18 名 外部 9 名 合計 83 名	

1. 講演のテーマ:「ウクライナ・ロシア戦争の背景と今後」
2. 講演者名: 神戸学院大学経済学部教授 岡部 芳彦先生
3. 講演者略歴: 1973 年兵庫県生まれ。中部大学博士(歴史学)、神戸学院大学博士(経済学) 同国際交流センター長、松口正記念ウクライナ研究センター長、国際ウクライナ学会日本支部会長、ウクライナ・プレカルパチア国立大学名誉教授、ウクライナ国立農業科学アカデミ-外国人会員

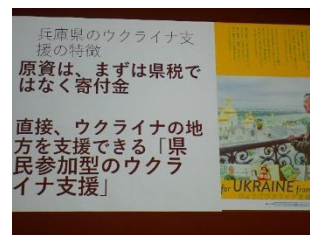
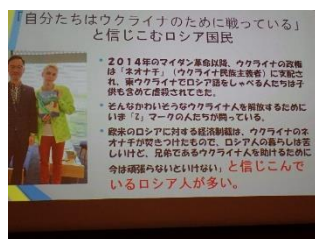
4. 講演要旨:

- ①、ウクライナの少数民族の衣装ウィンファンカを着て、少し長めの自己紹介から講演は始まった。ウクライナの首都の表記をキエフからキーウ(kiev ロシア表記→kyiv ウクライナ表記)に変更を提案したこと、関西のテレビ局の台本なしの進行、北方領土のビザなし交流の訪問団長として「紅の豚」のコスプレ姿での活動、交流イベントでのロシアの警官との緊迫した時間、ロシア外務省のブラックリストに指定された事などのエピソードが紹介された。
- ②、ウクライナは、日本と同様ロシアの隣国だと紹介された。ロシア発祥の地は、キエフだった。キエフ大公国(ルーシ)の後継国家がロシア。ロシア人とウクライナ人は歴史的一体、ウクライナ語は、ロシア語の一方言、小ロシア人と捉えられている。ロシア国民は、この戦争は少数民族・弱者を助けるための戦争と考えているようだ。
- ③、2023 年、「ロシア後の自由な民族フォーラム」が日本で開催された(2024 年は台湾開催)。ロシアの脱植民地主義、非プーチン化、非武装化を掲げている。このとき示された地図に、日本の領土は千島列島全域を含むとされた。
- ④、今、我々が出来る事。
日本で初めてウクライナ難民(バントゥーラ奏者)を受け入れたのは姫路市。その後兵庫県は、「ひょうごウクライナ支援プロジェクト」を立ち上げた。県税を使わず寄付金で賄う「県民参加型ウクライナ支援」で子供の義足に直接使っている(渡航費、訓練費など)。

5. 戦争中の日常、戦争終結に向けて

午前中に被弾しても午後には、観光客が普通に街を散策する日常がある。ウクライナ人は、約束を簡単に破るプーチンが存在する限り終わりはないと考えているようだ。ウクライナは、戦争の2ヶ月前に地雷撤去をしていた。侵攻はまったく予想していなかったようだ。

5. 写真



6. 所感:

ウクライナから戻ったばかりときいていたので、ウクライナの生々しい現状を知れると期待していたが個人の活動報告が主で少し残念でした。